

立命館大学スポーツマネジメントスクール 第3期<2009年度> 実施ならびに受講生募集のご案内

2009年6月1日(月)

立命館大学イノベーションマネジメント研究センター／スポーツ総合研究所株式会社

2009年度も、立命館大学では、「スポーツマネジメントスクール(SMS)」を開講いたします。

立命館大学スポーツマネジメントスクールは、2003年より2006年まで4年間にわたり(財)東京大学運動会が主催、実施したカリキュラムを踏襲した公開講座形式で、2007年度より開設いたしました。大学学部生ではなく、スポーツ産業におけるマネジメントを担う関西圏のビジネスマンのみなさまを対象に実施している「公開講座」となっております。

終身雇用制度の崩壊による人材市場の流動化は、多くの社会人が次のキャリアを自ら切り拓くための「働きながら学ぶ」という新たな教育市場を生み出しました。昨年度同様、「立命館大学スポーツマネジメントスクール」は、「再教育」という個人への投資を志向する多数の社会人が履修を希望されるものと期待しております。その意味でも、本学イノベーションマネジメント研究センターがSMSを開講する「立命館アカデミア@大阪」は、大阪・淀屋橋という絶好のアクセスにあると考えます。

このSMSは、2003年に(財)東京大学運動会で開講して以来、すでに500名を超える履修生を輩出し、多くの履修生たちがスポーツビジネスの世界で活躍しています。スポーツ界ですでに活躍中のみなさまにとっては、今一度の「気づき」「教育」の場として、また、これからスポーツ界へと身を投じ、実力を発揮しようという高い意志を有するビジネスマンのみなさまにとっては「スポーツマネジメントの特性を知る」場として、大いに活用されることを願っております。同時に、受講生同士の交流や、さらには日本全国で活躍する履修生も含めたネットワークも、参加する方々にとって大きな財産となるはずです。

多くのみなさまの奮ってのご参加をお待ち申し上げます。

実施概要

主催：立命館大学イノベーションマネジメント研究センター／スポーツ総合研究所株式会社

場所：立命館アカデミア@大阪（大阪市中央区北浜 3-1-18 島ビル 6F）

期間：2009年9月7日(月)～1月25日(月) 毎週月曜 18:30～21:00 <全15コマ>

料金：20万円(テキスト代含む/税込)

講師：弁護士、公認会計士、経営コンサルタント、危機管理コンサルタント、スポーツビジネスコンサルタント、ほか10名(別添資料参照)

内容：別添資料参照

定員：40名

応募要項：別紙および www.sports-soken.com/sms/ 参照

募集期間：6月1日(月)～7月25日(金)

備考：修了者には履修証明書(certificate)を授与

問合せ先：立命館大学スポーツマネジメントスクール事務局

E-mail sms-ritsumei@sports-soken.com (担当：広瀬/中村)

立命館大学スポーツマネジメントスクール

第3期＜2009年度＞

開講趣旨

2009年6月1日(月)

立命館大学イノベーションマネジメント研究センター／スポーツ総合研究所株式会社

社会的背景と開講趣旨

1) スポーツ産業の意義と可能性

わが国の経済が発展し、成熟段階に入り、「内需」と「ソフト」への傾斜を志向すべきであると、(古くは前川レポートにて)指摘されて既に久しい年月がたっています。そして、「失われた10年」と言われた1990年代の日本において、産業の生産性という点では、実は製造業においてそれほどの問題があったわけではなく、第三次産業の「サービス産業」における生産性が、先進国に比較して劣っていることも判明しています。以上の事実は、基本的に「内需志向」であり、「サービス産業」である「スポーツ産業」の今後の発展について、大きな潜在的可能性を示唆しているといえましょう。つまり、「スポーツ産業」を振興することは、わが国全体の経済にとって志向すべきパラダイムへの変換を促す現実的な契機となりうるのです。更に、「現状で生産性が低い」ことは、「今後の改善余地とその可能性が大いに現実的だ」ということでもあります。

また、スポーツ振興は「地域振興」につながることは今や常識となりつつあります。同時に日本人のライフスタイルは、可処分所得の伸びが抑えられながら、余暇時間(＝可処分時間)が増える傾向にあり、余暇が「時間消費型」となることも明らかです。従って、「余暇の過ごし方」という要素が日本人の人生の豊かさを決める重要度を益々深めていくことは確実です。スポーツは「時間消費型」のソフトですから、スポーツ振興は今後の日本人の生活の豊かさを左右する重要な要素だといえましょう。

2) マネジメント・ナレッジの確立と人材育成

現状においてスポーツ産業の可能性が、潜在的なままで現実化していないのにはそれなりの理由があります。

魅力的な「スポーツという商品」が存在し、かつ有望な顧客が存在するならば、その産業育成・振興のためには、

1) 資本 2) 制度 3) ナレッジ／人材

の3つが必要不可欠です(このナレッジは、競技向上目的ではなく、ビジネス・マネジメントのナレッジであることは言うまでもありません)。

スポーツ・サービス産業が未発達なわが国の現状を鑑みれば、そのどれもが不十分ではないでしょうか。この3つの間には相互に原因と結果の関係が存在します。資本のあるところに人材は集まるでしょう。また、制度と人材が揃えば資本は集まるでしょう。これらの関係はいわば「鶏と卵」のようなものです。だとするとどれから先に着手すべきなのでしょう。現下の経済状況、あるいは問題解決に要する時間、コスト等を考えると、3)の「ナレッジ整理と人材の育成」から開始することが、最も現実的だと考えます。

3) 大学の役割

最近、「スポーツ産業」が就職先として魅力的であるという認識が高まりつつあります。「スポーツが産業の場である」と広く認識されたのは、04年のプロ野球の再編問題と、「東北楽天」という新規球団創設というできごとが大きかったと思われます。新球団の創設にあたって人材を募集したところ、「数週間で数千名が応募した」という事実は有名です。そしてこれに呼応するように、多くの大学が「スポーツ・ビジネス関連」の学科・コースを新設・拡充し、またそれらを志望する学生も激増しているというのが現状です。

ただ残念ながら現実には、我が国ではスポーツが学校体育として定着していた歴史が長く、産業として認識されたのは最近なので、「ビジネス・ナレッジ」の集積と体系化が未熟であることは否めません。そもそも現時点では、「スポーツ産業」自体の定義すらできていないのが現実です。当然ながら現時点では、大学を始めとする教育界に「スポーツ・ビジネス」を教育するナレッジもメソッドも未整備なままであり、どこもいわば「見切り発車」のままで、「スポーツビジネス教育」をスタートしてしまったのが現状ではないでしょうか。

上記の課題を解決し、優秀な人材をスポーツ産業界に供給することは、単にわが国の「スポーツ界」のみならず、「(人材育成のための)教育界」、更には「経済界」にとって焦眉の急であると思われます。

立命館大学スポーツマネジメントスクール 第3期＜2009年度＞ 受講申込案内

2009年6月1日(月)

立命館大学イノベーションマネジメント研究センター／スポーツ総合研究所株式会社

1. 申込方法： 下記URLにアクセスし、応募フォームに必要事項を記入の上お申し込みください。
2. 提出書類： お申し込みの際は、以下2点の書類添付が必要です。

■ 受講申込書

＜www.sports-soken.com/form/rsms09/＞にアクセスし、応募フォームに必要事項を記入後、レポートを添付の上、ご応募ください。

■ レポート 2種

(1) スポーツ界が抱える課題について

現在のスポーツ界が抱える課題と、その解決方法について、ご自身のお考えをマネジメントの観点から言及してください。またこのスクールを受講する動機もあわせてご記載ください。

(2) 感想レポート

『「Jリーグ」のマネジメント』（広瀬一郎著／東洋経済新報社）をお読みにになり、感想をレポートとしてまとめてください。

＜様式＞

※それぞれA4用紙1枚以内／縦置き横書き（文字数自由）

※Word形式で作成したファイルを添付し、WEB上から送信してください。

注意）保存する2つのレポートのファイル名には、半角英数字のみをご利用の上、「姓-名-1.doc／姓-名-2.doc」として添付してください。

日本語や全角英数字をご利用の場合、添付・送信ができません。

例）鈴木一郎様の提出レポートのファイル名

レポート(1)／suzuki-ichiro-1.doc レポート(2)／suzuki-ichiro-2.doc

3. 受付期間： 2009年6月1日（月）～7月25日（金）

※本スクールでは、お申込をいただいた後、書類選考を行います。
※選考結果は8月上旬にE-mailにてお知らせする予定です。



お問合せ先



立命館大学スポーツマネジメントスクール事務局

E-mail: sms-ritsumeit@sports-soken.com



留意事項



■受講料は全額前納制です（受講料のお振込詳細については、選考結果と併せてご連絡いたします）。

■受講開始後における受講料の返還はいたしません。

■主催者の判断により、途中で退学を勧告する場合がございます。ご了承ください。